



# 南極観測隊経験者に インタビュー



53 次夏、54 次越冬

とみかわ よしひろ  
**富川喜弘さん**

国立極地研究所 宙空圏研究グループ准教授

(2016 年 7 月現在)



## 南極では、どんな研究やお仕事をしたのですか？

53 次夏隊では、南極昭和基地大型大気レーダー(PANSY)の設置・調整作業に従事しました。PANSY レーダーは 1000 本のアンテナから電波を発生し、上空の風などを測る装置です。

54 次越冬隊では、PANSY レーダーの運用のほか、レイリー/ラマンライダー観測や水蒸気ゾンデ観測などを行いました。ライダーというのはレーザー光を空中に発生して気温などを測る装置、水蒸気ゾンデというのは風船に装置をつけて飛ばして上空の水蒸気を測るものです。

これらの観測により、南極上空の大気の様子を知ることができ、南極の大気で起こっている様々な現象(例えばオゾンホール)や中低緯度とのつながりを調べることができます。



昭和基地で作った  
カマクラの中でビール！



## 初めて南極におり立ったときの感想をおしえてください。

南極観測船「しらせ」からヘリで飛んで昭和基地に入るのですが、53 次隊は昭和基地から遠く離れた場所からヘリで飛んだため、ヘリの中の時間が長く、まだかなあといいながら飛んでいたのを覚えています。

昭和基地に着陸した際は、すごく感動... ということなく、ああ来ちゃったなあと思ったような気がします。あまり感動とかできない性格でごめんなさい。



## 一番印象に残ったこと・一番楽しかったことはなんですか？

昭和基地に行くほとんどの人はオーロラに期待していると思います。実際、オーロラ爆発と呼ばれる非常に活発なオーロラが出た夜は、長時間、外でオーロラを眺めていました。また、オーロラの背景にある星空も圧倒的なほどに綺麗きれいで、天の川が何故ミルキーウェイと呼ばれるのが南極に行って初めて理解できた気がしました。

一方、南極では昼間も面白い光学現象をたくさん見ることができます。その中でも最も感動したのが幻日環げんじつかんです。頭の真上を中心に、太陽と幻日の上を通る白い大きな輪っかができます。一緒に見ていた他の隊員と、「セカンドインパクトだあ」と言って騒いだのを覚えています。

他にも楽しいことはまあいろいろと。でも字数が...